

慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resources

Title	小特集：国際産業組織論の実証研究
Sub Title	序 Preface
Author	佐々波, 楊子 木村, 福成
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1998
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.91, No.2 (1998. 7) ,p.169(1)- 170(2)
Abstract	
Notes	小特集：国際産業組織論の実証研究
Genre	Article
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19980701-0001

小特集：国際産業組織論の実証研究

1997年11月28日と29日の両日、千葉県木更津市のかずさパーク（かずさアカデミアセンター）にて、経済学会コンファレンス「国際産業組織論の実証研究」が開催された。本コンファレンスは、産業組織論の実証研究に関する第1線の研究者であるカリフォルニア大学ロサンゼルス校ジョン・アンダーソン経営大学院の山脇秀樹氏が経済学部特別招聘教授として訪問された機会をとらえ、日本企業の対外直接投資に関連する実証研究に携わる研究者の研究発表と学術交流を意図して開かれたものである。

直接投資に関わる実証研究は、狭義の経済学に含まれる国際貿易論や産業組織論にとどまらず、アメリカで言えば通常ビジネス・スクールに属する国際ビジネス論や多国籍企業論など、多くの分野にまたがって行われてきている。近年、企業行動のミクロ的分析が次第に精緻なものとなっていく一方、それをいかにしてセクターあるいはマクロに積み上げて一般均衡の経済モデルに組み込んでいくかが、この分野での大きな研究課題となっている。また、特に日本の対外直接投資については、以前は用いることのできなかった個票レベルのマイクロ・データへのアクセスが可能となるなど、実証研究のスコープが広がってきている。コンファレンスで発表された8本の論文はそれぞれ異なったアプローチを採りながらも共通の問題意識を有しており、したがってコンファレンスでの討議は当該分野全体の大テーマについての共同研究としての色合いをも持つものとなった。

コンファレンス・プログラムは以下に添付した。今回の小特集には、発表された論文のうち山脇論文、佐々波・河井論文、木村・堤論文、ウォン論文の改訂版を掲載する。

コンファレンス・プログラム

（所属は開催当時のもの）

(1) 「国際競争と企業戦略：研究課題」

発表：山脇秀樹（慶應義塾大学経済学部特別招聘教授）

(2) 「日本企業の海外進出形態の実証」

発表：長谷川信次（早稲田大学社会科学部）

コメント：亀田啓悟（慶應義塾大学経済学研究科）

- (3) “Japanese FDI in East Asia”
発表：Wong Yu Ching ((財)国際金融情報センター)
コメント：深尾京司 (一橋大学経済研究所)
- (4) 「日本の産業空洞化：1987年から93年の主要電機メーカーについて」
発表：洞口治夫 (法政大学経営学部)
コメント：秋山裕 (慶應義塾大学経済学部)
- (5) “Japanese Foreign Direct Investment in Europe and Asia : Empirical Analysis of the International Strategies and Their Impact on Host Regions”
発表：佐々波楊子 (慶應義塾大学経済学部)
河井啓希 (慶應義塾大学経済学部)
コメント：田村晶子 (法政大学経済学部)
- (6) “Communication Technology and Cities”
発表：今川拓郎 (郵政省)
コメント：木村福成 (慶應義塾大学経済学部)
- (7) “Protecting Embeddedness : What Happens at Home When Japan’s Production Networks Expand into Asia”
発表：Walter Hatch (慶應義塾大学法学部)
コメント：浦田秀次郎 (早稲田大学社会科学部)
- (8) 「企業国籍アプローチに基づく CGE モデルの構築」
発表：木村福成 (慶應義塾大学経済学部)
堤雅彦 (経済企画庁)
コメント：野村浩二 (慶應義塾大学産業研究所)

佐々波 楊 子
(名誉教授・明海大学経済学部教授)

木 村 福 成
(経済学部助教授)